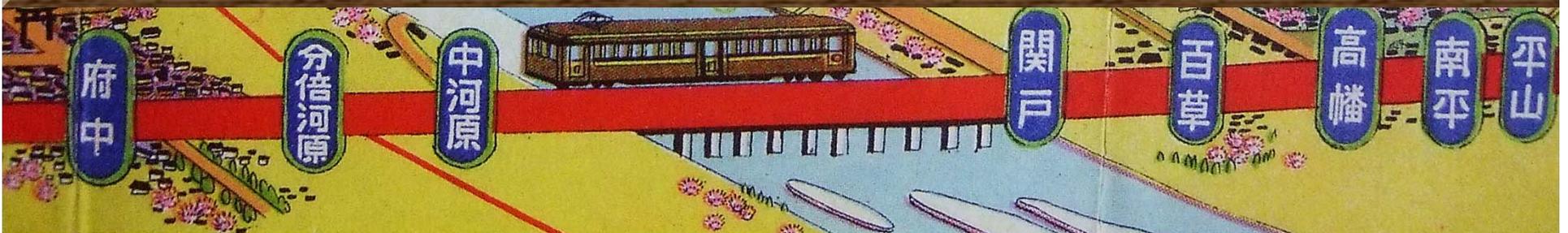




# TAMA魂 多摩学 最終発表



高橋豪・高遠恵治・三谷明史  
山田真里帆・石川健太





# 多摩学研究目的

## 私達の多摩学の目的

多摩のローカリティ(特徴・特質・個性)を深く研究することで、グローバルとのつながりが見え、又「多摩圏とは何か？」という事を明らかにすることを目的とする。

## 論文の形式

多摩学は一人ひとり各テーマを調査し、最後にグループとしてのまとめを書く。

## 研究対象

水防の課題  
市民農園  
民話  
千人同心  
絹の道

グループとしての  
まとめ

# 多摩川における 水防の課題 ～歴史的観点から～

多摩学 高遠恵治

目次

第1節:はじめに

第2節:多摩川の現状

第3節:水害の歴史

第4節:治水の登場と進歩

第5節:水防の現状と課題

第6節:まとめ

## 研究目的

- ・多摩川の水防の課題を、歴史的観点から見ることで明らかにし、多摩の特徴を発見する。

## 研究内容

- ・多摩川は暴れ川で、今まで水害の被害が大きい。私は、水害の歴史を調べることで、水防の重要性や課題を考察した。

## 結論

- ・多摩川流域の水防意識が低いことが分かった。  
→治水技術の進歩や新住民の増加など

# 市民農園の可能性

—奥多摩のケース—  
石川健太

## 目次

### 第一節

はじめに  
目的

### 第二節

市民農園とは何か

### 第三節

市民農園の可能性  
FW奥多摩ふれあい農園

## 研究目的

現代の市民農園の実体を探る

## 研究内容

奥多摩町にある「おきたま海沢ふれあい農園」という市民農園を調べた。

## 結果(仮)

市民農園における、農地所有者と農園利用者の土地貸借関係から地域活性化等の社会貢献活動へ発展していく

# 民話に見る多摩 のライフスタイル

山田真里帆

## 目次

第一節  
はじめに

第二節  
民話紹介

第三節  
民話分類

第四節  
考察

## 研究目的

多摩の人々の生活の様子や  
気質を民話から探る

## 研究内容

西多摩・南多摩中心に民話(約100  
話)を調べ、複数の視点から分類し傾  
向を抽出

## 結論

山地・平地による生活圏の認識の差と、  
職による差があり、環境に対応した  
動きがある

生活環境が人々の行動や心情に影響

☆ 多摩のライフスタイル・気質は多様である

# 世界を繋ぐ絹の系

## —絹の道—

高橋 豪

### 目次

#### 第一節はじめに

研究目的

#### 第二節

絹の特性と絹織物の製造プロセス

#### 第三節

流通経路

#### 第四節

現代絹織物における付加価値創出事例

#### 第五節

まとめ

### ● 研究目的

「絹を題材に多摩圏(特に八王子)における物の流れと現在における絹の付加価値創造・多摩圏のグローバル化について調べ、多摩圏について探る」

### ● 研究内容

#### 1、文献調査

#### 2、郷土資料館へフィールドワーク

#### 3、現在多摩の絹を扱う多摩シルクライフ21研究所へインタビュー(現在進行中)

### ● 結果

絹自体は平安時代より前から日本にはあるが、多摩圏の絹は、横浜開港時にグローバル化が急速に進み、輸出の花形となった。その結果、絹は多摩圏内に莫大な富を築いた。

その後、戦後から現在にかけて、絹はナイロンの進出により衰退を見せた。が、グローバル化に対応する新しい形の呉服屋も出てきている。

# 千人同心の蝦夷地開拓にみる多摩圏の組織文化

三谷明史

～目次～

第一節 はじめに

第二節 千人同心の組織

第三節 江戸での千人同心

第四節 蝦夷地に行く経緯

第五節 蝦夷地での千人同心

第六節 組織の比較

第七節 まとめ

## 研究目的

- ・千人同心の蝦夷地開拓から多摩圏特有の組織文化を理解する

## 研究内容

- ・移住前の千人同心の組織と蝦夷地移住後の組織を比較し共通の部分を抜き出す → 多摩の特性

## 結論(仮)

- ・八王子では3段階式組織  
↓ 蝦夷地では  
5段階式の組織編成となっている  
千人同心は違う土地にも対応する知恵を持っていた

多摩学テーマ別まとめ表	グローバル(世界) の変化への対応	ローカル(地域) の変化への対応
高遠 水防の課題	古代の治水は中国を参考にしていた。 明治の文明開化に伴い、近代治水 の登場で水害の頻度が減少した。	江戸時代に比べ、現在は治水技術の進歩や 新住民の増加等で水防意識がとて低くなっ ている。 戦後のコミュニティー意識の弱体化
三谷 八王子千人同心	ロシアの脅威に対して蝦夷地へ 移住し警備・開拓を行った	蝦夷地開拓の千人頭が新編武 蔵風土記稿・相模国風土記稿の 編纂に従事 →地理意識の変化
高橋 絹の道	横浜開港～戦後まで、絹が生活用品 から輸出の花形へと変貌した。海外の 技術者が日本に来て、近代工場を作り、 日本の近代化への基礎を作った。	多摩地区は、養蚕関係で莫大な富を築いた。 その後、工場の基礎ができ、近代的な工業 へ進む。又、戦後の絹織物の衰退にめげず に新しいアプローチで絹織物をお店も出 てきている。
山田 民話	近代化による蘭学の登場 や農具の変化等	多摩の人々は生活圈、つまり ローカルな環境の影響を受けて いる。
石川 市民農園の可能性	グローバル競争で日本の耕作放 棄地増加 ↓ 市民農園として活用	市民農園は地方都市の過疎化に 伴う地域の衰退化への打開策と なりうるのではないか

# まとめ

- 今回、ローカルを意識した調査をしたところ  
**ローカル** と **グローバル** の特性の両方を読み取ることができた。

多摩学としての結論

多摩圏は複数の視点から  
考察しなければ語れないという  
事がわかった。

# 来年へのメッセージ

- ① 今回の多摩学を土台に、広く深く考察し多摩の地域を解明してもらいたい。
- ② 今年のテーマにこだわるだけでなく様々な視点から折り重なるように考察してほしい。





ご清聴ありがとうございました。

